

## 今、私たちが必要とする政治とは ～嘉田由紀子 前滋賀県知事からのメッセージ～

前滋賀県知事 びわこ成蹊スポーツ大学学長  
嘉田由紀子

### 嘉田由紀子（かだ ゆきこ）

埼玉県本庄市の養蚕農家出身。中学校の修学旅行で滋賀・琵琶湖に感動。京都大学入学と同時に探検部入部。電気もガスも水道もないアフリカで半年暮らし水と環境の価値発見。アメリカ・ウイスコンシン大学留学後京都大学大学院修了。農学博士。滋賀県琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館学芸員を経て京都精華大学教授を務め2006年7月「もったいない！」の訴えで県民の高い支持を得て滋賀県知事に初当選。財政再建、子育て・女性参画、文化・環境政策に尽力。2期8年知事を務め2014年10月にびわこ成蹊スポーツ大学学長に就任。未来政治塾で若い政治家を育てる。



### ■知事8年間と龍谷大学とのご縁

嘉田由紀子 皆さん、こんにちは。大矢野先生から「今の若い子は政治に関心がいないから…」とお聞きしていて、また、投票率は20代で20%、30代で30%…と低迷しているので「教室がガラガラなのは」と心配していたのですが、こんなにたくさんの方に来て頂いて感謝しています。

20数年前、武村知事の時代に滋賀県は、龍谷大学の瀬田キャンパス誘致をさせて頂きました。当時で50億円程度だったと思いますが、大学誘致はとても投資効果がある事を8年の知事経験で改めて感じました。企業や工業の誘致は生産活動が目的ですが、大学では数千人の方が毎日生活する経済効果はもちろん、社会人の育成に加え知識も蓄積されるという事で大学の新しいキャンパスは日本中で引っ張りだこなので、滋賀に来て頂いた事を大変有難く思っています。実は私も農

学の出身なのですが、私学で農学部を新設されたのはおそらく数十年ぶり、「農学部なんて時代遅れだろう。どこも生物資源科学部等々名前を変えていくのに、何で今さら」と思った方も多いと思いますが、「農」が付く学部を滋賀県につくってくださったのは500年、1000年と続く人間の営みの原点がお分かりの龍谷大学さんだからこそだと、とにかく感謝しています。

私自身も龍谷大学さんと縁が深く、知事就任（2006年7月20日）から丁度1年後の2007年7月21日にこちらで『何故、学者から知事に挑戦したのか？何をやりたいのか』を講演させて頂きました。講演の中身は大矢野先生に資料を見せて頂き、改めて8年間同じ事を言い続けていた事に気付きました。それをブレないとするか、貫いたとするか、時代を先取りし、「税金の無駄遣いはもったいない」「環境を破壊するのはもったいない」「子供が生まれにくいのはもったいない」という「3つのもったいない」を訴えてきま

した。40年前から「財政」「環境」「人口減少」という3つのリスクを感じて社会学の研究を続け、研究者として何十冊、何百冊もの本を執筆しても行政や政治が変わらないのなら評論家である訳にいかないと思事選に手を挙げました。ですから今日は2007年7月21日のおさらいとして8年間知事を務め、何がどのように見えてきたのかを今一度考える、大変有難い機会を頂いたと改めて感謝を申し上げます。

### ■盟友・小坂育子さんの存在

私はとても欲張りで今日は全66枚もの資料をお配りしてしまいましたが、これを1時間30分でお話するのは到底無理です。私は「県の行政も研究者のデータもすべて公開すべきだ」と考えていて、データはすべて公開しているものですしデジタルデータも残しておきますので、お使いになりたいデータがありましたらご連絡をください。もう一点、「かだ由紀子と歩む会」というニューズレターをお配りしています。これは7月19日の退任後に後援会でつくらせて頂いたのですが、本日後援会会長の小坂育子さんが来て下さっていますので、一言頂きたいと思ます。

**小坂育子** 皆さん、こんにちは。私は嘉田前知事と共に8年間歩み陰で支えて参りました。振り返るととても無謀な挑戦で、しかし「この選挙には絶対に勝とう」と誰にも見向きもしてもらえない中二人で行脚し、「私たちの暮らしを脅かす政治であってはならない」と共に歩んできました。様々な内容を専門的に掘り下げた県政という事で、結果的に「研究者・嘉田由紀子」というレッテルは知

事として非常に良かったと感じていますし、それを支える事ができ嬉しかったと思っています。

**嘉田** ありがとうございます。小坂さんとは30年来のお付き合いになりますが、「水と文化研究会」という地域研究会でも地域を歩きながら一緒にやってきました。この後、2006年4月1日に二人で出馬を決め、今年3月9日に二人で辞任を決めたといったお話も出てきます。また、今回は大矢野先生にお招き頂きましたが、堀尾先生とは地元学でずっとご一緒させて頂き、滋賀県のエネルギー政策についても非常に重要なアドバイスを頂戴しています。このように龍谷大学の皆さんにも支えて頂き8年間やり遂げたご報告や、なぜ8年で知事を辞めたのかを含めてお話をさせて頂き、最後は皆さんに「政治って私たちにも関係するんだ」と思って頂きたい。例えば「就職が難しい」、これをご自分の責任にしないでください。国、あるいは制度の問題です。「彼女ができない」というのはご本人の問題ですが…、「結婚できない」「結婚しにくい」「子供が産めない、産みにくい」、これらはかなり社会の構造問題です。そういった事も含め皆さんが幸せに楽しく充実した人生を過ごすためには「政治の力が大事なんだ」という事を理解して頂ければ有難いです。

### ■5つの課題と7つのテーマ

今回、大矢野先生から頂いた宿題は以下です。1つは、今私たちが必要とする政治とは何か？ 如何なる理念に基づいた政治が必要なのか。しかし、そういった政治は待っていて実現できるものではありません。では、誰

がどこを起点にどういう方法でつくり出すべきなのか、という4つの質問でした。そこに地域自治の観点から原発再稼働の問題を加えた5つの宿題です。そこでこの宿題について皆さんと共に考えるために以下7つの項目を準備しました。

1. 日本における3つの政治理念
2. なぜ、学者から政治家へ？ 調査・研究から実践へ
3. 選挙の闘い方が政策実現の手法、成果を規定する
4. 財政健全化—ムダな公共事業の見直し
5. 命を生み出し、人口減少への滋賀県の独自政策
6. 命を守る琵琶湖、原発による生活破壊、自然破壊への「被害地元」としての異議申し立て
7. 「チームしが」これまでとこれから  
今、滋賀県では特定の政党に頼るのではなく、「自分たちの草の根の政策集団をつくろう」という事で、私自身が仲間に呼びかけ動いている「チームしが」の政策研究を最後にご紹介します。

### ■ (1) 日本における3つの政治理念

1970年代に政治学者の篠原一氏が日本の政治プロセスを分析されました。今から4、50年前、美濃部都政や北海道の横路知事が誕生した際になされた議論が未だに改善されていない点についてのお話です。

3つの政治理念の1つハイ・ポリティクスは共産主義だ、自由主義だ、資本主義だというイデオロギー対立を篠原先生はそう名付けておられます。2つめのインタレスト・ポリティクスは利権や利益誘導型の政治で、例えば「○○しますから一票ください」という

かなり直接的な政治です。私は知事選の時に「新幹線の新駅は要らない」「ダムは要らない」と言い、まさにインタレスト・ポリティクスに反して票を頂きました。これは極めて珍しく、インタレスト・ポリティクスの反省が3つ目のライブラリー・ポリティクス（命と生活の政治）に反映されています。

今日、大矢野先生が篠原先生の著書『ライブラリー・ポリティクス—生活主体の新しい政治スタイルを求めて（1985年／総合労働研究所）』をお持ち下さったんですが、これはまったくの偶然で、私と先生が同じ方向で考えていた事が分かりました。40年ほど前の本ですが私もすごく勉強させて頂き、それが未だに理論として有効なのはインタレスト・ポリティクスやハイ・ポリティクスから脱却できていないからで、その点を若い方々には期待したいですし、「皆さんにとって政治とは？」という問いかけが今日の意図の1つでもあります。

### ■ 滋賀県におけるライブラリー・ポリティクスの経過

先ほど美濃部知事や横路知事のお話をしましたが、40年前の滋賀県でも「命と生活を大切にする」という1つの政治転換がありました。1974年武村知事誕生をご存知の方、また武村知事の“石けん運動”をご存知の方はいらっしゃいますか？

**聴講者** 私が学生の時、龍谷大学に武村知事が特別講義か何かで来られ、お話をお聞きした記憶があります。

**嘉田** ありがとうございます。単なる歴史ではなく生きた記憶には感慨深いものがありますね。武村知事の特講は1980年代だった

と思いますが、実はその特講が滋賀県に龍谷大学ができるご縁になったんです。

武村さんはドイツへの留学経験もおありで、まさに命と生活を大切にする地方自治を学んでらっしゃいます。そして生活に根差した地方自治をやりたいと38歳で八日市市長に挑戦、40歳の時に知事選に挑み8000票という僅差で勝たれました。武村さんを知事選に引っ張り出したのはチッソ水俣病の関連会社の職員だった細谷卓爾さんですが、当時社共連合で金権体質の自民党・野崎知事は瀬田の文化ゾーンで土地転がしなどいろいろやっていたそうです。ご本人がお亡くなりだったので真実はうやむやになっていますが、武村さんはお金に塗れた金権体質の浄化と琵琶湖の浄化をされ、その後の環境関係政策のほとんどは滋賀県独自のものになっています。

また、合成洗剤に入っているリンが琵琶湖を汚染するとし、水質を規制する「富栄養化防止条例」を制定、「台所から滋賀県の環境を考えよう」と石けん運動をおこしました。県独自の琵琶湖研究所を発足、琵琶湖の生態系や水質などどちらかと言うと工学的な研究者が多い中で「社会科学の研究者を採用しよう」と武村知事にアドバイスをしたのが梅棹忠夫さんでした。私は梅棹忠夫さんの人類学サロンでアフリカ研究などを学んでいたのですが、公募で琵琶湖研究所に入り湖と人の関わりを研究し、武村さんがつくられた舞台の中で研究してきました。この後、世界湖沼会議、環境学習船うみねこ、琵琶湖博物館、滋賀県立大学の環境科学部、またヨシ保全条例など、すべて滋賀県の仕事として国の保護なしに行ってきましたが、武村さんは「逆に国が邪魔をする」とおっしゃっていました。

私が琵琶湖研究所に入所して3年目、1984

年に行われた世界湖沼会議については「なぜ自治体が国際会議をやるんだ」と外務省から怒られたほどで、ある意味国が理解してくれなかった事をどんどんとやってきました。琵琶湖博物館は小坂さんたちと共に住民参加型の博物館をつくろうと運動しましたが、こちらも国はついてこられずでした。私は博物館の“普及”という言葉が嫌いなので“交流”という言葉に変えたら「博物館法に合わないから認定博物館にはしない」と言われ、「だったら結構です」と、国の認定なしにオープンしました。するとしばらくして「中身が素晴らしいから認定させてくれ」と言ってきました。

素晴らしい事に滋賀県は琵琶湖を中心に独自の分権と自治の中で琵琶湖を守り、琵琶湖と共に生きてきました。そして「人々が幸せになるための政治」を武村知事から稲葉知事、國松知事、私と四世代続けて追い続けて参りました。

## ■ (2) なぜ、学者から政治家へ？ 調査・研究から実践へ学者から政治家へ

立教大学の五十嵐暁夫さん(政治学者)は、地方自治からライブリー・ポリティクスへの転換を武村さんから引き継ぎ、相互扶助の伝統の素地があった事を評価してくださいました。さらに「女性が政治に動く時」という調査もされていて、「2006年の嘉田の選挙は新幹線の新駅やダムの中止などはまさにライブリー・ポリティクスであり、『卒原発』も原子力発電所の危険性を知った今時間の針を元に戻さない、未来型のエネルギー政策を進めるライブリー・ポリティクスだ」といった評価も頂いています。

「3つのもったいない」の税金の無駄遣い＝

公共事業の見直しですが、新幹線の新駅、6つのダム、そして産廃の処分場、これらが当时无駄な公共事業だと名指しで批判したもので、新幹線の新駅は2007年7月に実質中止になりました。既に工事が始まっている公共事業でも県民が投票で「要らない」と判断すれば止められる。しかも裁判や様々な協定違反といった法的な問題を起こさずに中止できました。

一方、6つのダムの中止・凍結には8年を要しました。後で申し上げますが、ダムには利水や治水など様々な意味があります。今は水余りの時代ですから利水はほとんど必要なく、治水は水害対策のダムが主でしたが、効果的なダムはともかく何十年も何百億円も費やすダムの他に方法はないのかという事で、こちらも後でご紹介しますが、安く早く確実なライブリー・ポリティクスの基本として流域治水を徹底して行いました。

そして廃棄物処分場は2007年の4月に中止を宣言しました。知事になって驚いたんですが、県は実際には減るゴミの量を増えるかのようにデータを改ざんし、処分場の必要性を県自身がつくり出していたんです。これは絶対にやってはいけない事ですが、そういったデータ操作はよく行われるので住民の皆さんは賢くならなければいけません。

結果的に借金を900億円以上減らし、逆に300億円の貯金をつくり、3つのもったいないによる財政再建もかなり方向が見えてきました。

次に2つ目の「子どもや若者の自ら育つ力、そこなかったらもったいない」です。これは若い人の雇用、特に男性の場合は正規雇用、女性の場合は子育てと仕事の二者択一を迫られずに両立できる事です。正規の職がある男性の8割が結婚してらっしゃるのに対して正

規の職のない男性の既婚率はわずか2割と、特に男性は正規職の有無が結婚に大きな影響を及ぼします。そして女性は二者択一を迫られるかどうか。皆さんがお持ちの感覚と異なるかもしれませんが、子育てと仕事が両立できると出生率は上がります。つまり、二者択一を迫られるから家庭をもたず子どもを産まない、あるいは産めない女性が増えている。これが少子化の大きな原因で、こちらも後でデータをご紹介します。

滋賀県では、子どもを育てやすい環境「子育て三方よし」を掲げ、子どもも親も社会がサポートする事で出生率全国2位を達成しました。子沢山の地域、1位の沖縄にはかありませんが、1000人あたりの子どもの出生率は全国8.5人に対して滋賀は9.2人と全国で2位です。いかに子育てがしやすい社会をつくるかという方向も見えてきました。

そして3つ目の「琵琶湖の自然を壊したらもったいない」では、琵琶湖の固有種の倍増や内湖の再生、湖と陸地の繋がり再生などを含めたかなり抜本的な政策を進めました。

### ■知事引退、その決断と理由

3つのもったいないを訴え評論家ではなく実社会で成果を出したいと頑張ってきましたが、2期8年目を迎え「方向が見えた事」が引退を決意した3つの理由の根幹にありました。しかし、では、誰にバトンを渡すのか？

それは2つ目の理由に繋がるんですが、私の政策を継承してくれる若い後継者が出現しました。ニューズレターの1ページ目に詳しく書いてありますが、三日月大造さんは国政10年の経験があり、国の政策が自治体でどのように活かされているのかを確実にフォローし、知事として国に対して提案してい

きたいとおっしゃっていました。43歳とお若いですが、小・中・高の3人のお子さんと奥様を大切にされる方です。選挙はとてつもない挑戦なんです、「落選したらどうするの」と奥様に尋ねると「私が働きます」ときっぱり。奥様は看護師なんです、「この覚悟、良いな」と私はさらに三日月さんを信頼し、後継者としてバトンをお渡しする事を決めました。

しかし、選ぶのは県民の皆さんですから、選挙というプロセスが必要です。私の「卒原発」を国は歓迎しておらず、「嘉田はけしからん」と国の言いなりになる刺客を送り込んできました。その候補者にバトンを渡す訳にはかないと特定の政党ではなく県民のための政策集団「チームしが」をつくり三日月さんを応援しました。無党派県民を含む政策集団として選挙活動をした結果、県民の皆さんは武村、嘉田、三日月という草の根自治を評価してくださいました。ただ接戦でした。国は200人の国会議員を入れ込み、経済界、農業界、福祉界、みんなそれぞれ大臣、ヒモが付いて「嘉田を応援したら補助金削減するぞ」という直接的な働きかけもあったようですが、県民は鉛筆1本の勇気で草の根自治の継承を選んでくださったんです。

そして3つ目の理由は、政治家としての達成感と若者を育てたいという思いです。これからの日本にももちろん経済は大事ですが、高齢化社会で子どもさんからお年寄りまでが元気に生きていくためにスポーツと文化で内面を充実させたいと知事の時代から考えていたからです。まず、瀬田キャンパスの隣にある新生美術館を拡大し瀬田の文化ゾーンを強化、仏教文化や障害者の方がおもちの造形的な発信力、「アール・ブリュット」を滋賀ならではの文化政策として力を入れた

いと考えています。

また、私は直感的に子ども時代のスポーツ、特に遊びと身体を動かす事が大事だと感じていましたが、日本の子どもたちは家の中に閉じこもっていて将来が心配です。身体を動かす力、中でも神経系の8割は5歳までに発達するという成長曲線のデータがあり、子どもの頃から、また高齢者は平均余命を伸ばすためにもスポーツが大事ということで、スポーツ大学からお誘いを頂き現在学長を務めています。あわせて遠い政治を近くに感じる、まさに今日のように若い皆さんに政治に関心をもって頂くために未来政治塾を設立し、次世代の若者を育てたいと考えています。

#### ■草の根自治を「つなぐ」

武村知事から嘉田、そして三日月知事へ、私は「つなぐ」という事が一番大事だと考えました。「環境自治、草の根自治をつなぐ事が県民にとって最良の道ではないか」と選挙で提案させて頂き、県民の皆さんが支持してくださいました。70歳で退任なさった武村さんは現在80歳で「選挙には一切関わらない」とおっしゃっていましたが、国があまりにも圧力をかけてくるので、「それはおかしい、選ぶのは県民ではないか」とお怒りになってしまい、最後には「昔の知事がノコノコとやってきました。三日月は良い若者です。この人に一票を」と、私と二人で街頭に立ってくださいました。武村さんはライブリー・ポリティクスを日本に、滋賀に根付かせてくださった恩人でもあります。

### ■よそ者、女、学者3つの批判を逆手に

私が知事に手を挙げた時、「よそ者だから」「女だから」「学者だから」という3つの批判を頂きました。

まず、「よそ者に何が分かるんだ」と。私は埼玉の生まれですが、戦後、これまでの滋賀県知事は皆さん滋賀県生まれで、でも結果的によそ者だからこそ滋賀県の強みが分かったんだと思っています。地元学の「無い物ねだりではなく、あるものを探してあるものを活かす」、地域の魅力を丸ごと産業化し、地産地消型の文化、経済、環境政策を積み上げる事ができたのはよそ者だったからだ。自分の故郷を腐すつもりはありませんが、埼玉には、特に関東平野は風景がとても単調です。でも滋賀には琵琶湖があり神と仏が住まう比叡山があり、1000年、1500年と続く文化的伝統が今も活きている。15歳の時、修学旅行で関西に魅せられ、何よりも比叡山・琵琶湖が気に入りましたが、よそ者だからこそ滋賀の価値が分かったんだと自負しています。

次に「女だから」。私も仕事と家庭の両立には悩みました。男性の人生も大変ですが、女性の人生は分岐点が多く本当に大変です。結婚相手によって住まいも経済状況も変わってきますし、子どもを産むか産まないか、産まれた後どうするか。私は一貫して仕事を続けてきたので40年間の苦労の中から人口政策を含め「女だから」見えて、言える事があると思っています。

そして「学者だから」。“How”という行政の仕組み重視の官僚の仕事に“Why”という政治の価値観をプラスし、実現に向けブレる事なく筋を通す事ができた。先ほどの細谷さ

んから「学者で良かったね」というもったいない言葉を頂いたんですが、行政の仕組みは予算と法律でつくられています。皆さんがこれから行政に入られたら「予算はあるのか」また「法律はどうなっているんだ」とよく聞かれると思います。法律と予算、これはHowにとって大事ですが、なぜその法律なのか、なぜその予算なのかというWhyについては意外と議論しません。学問はそこを問います。今の時代になぜ人口政策なのか、なぜ財政再建なのか、なぜ環境保全なのか、時代の中で学問の中で“なぜ”を問います。「2006年の3つのもったいない」をずっと言い続けてきたのは、この3つが日本社会の持続性を維持するために大変大事だと思っていたからで、Whyがあったからだと思っています。

実は3つの批判のお話は知事を退いてから初めてお話しています。知事時代に言っていたら、「自画自賛だろ。また票が欲しいのか」と言われていたでしょうから。今は候補者ではありませんし、政治的憶測をはなれて話ができるのがありがたいです。

### ■一個人、嘉田由紀子のこれまで仕事と家庭、両立の苦悩

こちらは私が大学生の頃の、そしてアフリカに行った19歳の頃の写真です。私はかなり子どもの頃から「人間とは何か」「文明の中で本当に人間は幸せか」といった事を考えていました。文化はあるけれど文明のない所、電気もガスも水道もないような所で人が暮らすとはどういう事だろう？ だったらアフリカに行くしかないと高校生の時に決めていました。しかし1ドル360円の時代に、しかも女子大生が1人で海外に出るタイミングはほとんどなく、まずは探検部に入ろうと

探検部を目的に京大の農学部を選び、頑張って入試を突破しました。しかし、京大の探検部は女人禁制です。現在の探検部は女性が8割で男性が2割しかおらず「男の子どうしたの」とみんな言っていますが、40年前は女人禁制、そんな時代でした。

その後、大学3年生のときに1人でタンザニアに行って発見したのは「コップ1杯の水」「1皿の食事」の大切さでした。文明のないアフリカで自然の価値を見つめ直し、「この水が汚れたらどうする。農作物が作れなかったらどうする」というギリギリの現場を見た時、「環境と人間の関わりを研究しよう」と決意しました。

1972年、メドウズが『The Limits to Growth—成長の限界』という本を出版した時に「環境研究をしよう」と決意したんですが、日本にはまだ社会系の環境学を学ぶ場がほとんどありませんでした。そこでアメリカのウィスコンシン大学農学部のソーシャルチェンジというプログラムを発見しアメリカに留学、水や環境の価値を学びました。その時の指導教員が「ユキコ、環境と人の関わりを勉強するならアメリカでもなくヨーロッパでもなく、モデルは日本だ。アメリカは200年、250年前にインディアンが住む場所を植民地化し、水も使いたい放題で規模だけ広げ、目先の経済を追いかけている。ヨーロッパも800年、900年前に森を切り開いてしまった。日本は1000年、2000年、田んぼを森を水を大事にしている。持続性のある環境との関わりは日本にこそあるから帰りなさい」と言ってくれました。目から鱗でした。だったら琵琶湖周辺でと、留学して1年後に一次帰国、アメリカへの修士論文は、日本の農業、彦根市での農村社会の持続性についての論文を提出しました。

その後、1975年にアメリカで長男、1979年に次男を授かり、紆余曲折ありましたが、有難い事に1981年に武村さんがつくられた琵琶湖研究所に県職員として採用して頂きました。保育園を探し、ベビーシッターをお願いし、お手伝いさんを頼み、仕事と家庭を両立させてきました。私というより周囲の方々に子どもを育てて頂きました。元つれあいは国際農業経済学者で「明日からワシントンだ」ととても忙しく、私は母子家庭だったんですが、息子たちは「うちは母もいない子家庭やった」と言っています。精一杯愛情を注いできたんですが、そう言った長男はすでに40歳で子どもが3人、次男は36歳で子どもが2人、3人目がもうすぐ誕生します(2015年6月12日に誕生)。

という訳で子育てをしながら進めてきた研究でしたが「研究だけで社会は変わらない、自分がやらなければ」と小坂さんと女二人で決意しました。よく「あの時決意したな」と思い返しますが、実は当時3日間、小坂さんが消えたんです。未だにどこで何をしていたのか、考えていたのか分かりませんが、責任が重く、本当にやれるのかといったこれまでの人生でした。

こちらの写真がウィスコンシン大学で、こちらが元つれあいです。2006年に選挙に出ると私が言い出すまで学者としてずっと一緒にやってきて、父親として子育ても一所懸命やってくれていました。しかし「学者が政治家になるのは納得できない。知事選にでるなら離婚だ」と三行半をつきつけられ、「当選したら離婚だ」と、当選してしまったので離婚しました。でも、もしこの8年間つれあいがいて、食事をどうするなど考えなければならなかったら…。いくら私が図々しくてもつれあいに配慮はしなければなりません

から、一人で良かったのかなとも思います。24時間365日県民の事だけに集中できた事は離婚してくれた元つれあいに感謝していますし、今でも研究者として話はしています。

こちらは生まれたての長男の写真です。当時は仕事と家庭の両立で本当に悩んでいたんですが、アメリカの社会心理学の先生が次のようなアドバイスを下さいました。「アフリカに行ったりアメリカに留学したり、あなたのようにアチーブメント意識（何かをやりたいという意志）を強くもった女性が家庭に入ったら子どもに良くない。あなたはきっと息子に言うでしょう、『あなたができたからお母さんは仕事を辞めたのよ』と。これは絶対に言うてはいけない言葉」と言うて下さいました。子どもは「好きで産んでもらったんじゃない」って言うでしょうし、自分が邪魔な存在だと思ってしまう。「あなたはいろんな人に手助けをしてもらって、24時間中23時間は社会や自分のために使いなさい。でも1時間は母親としての愛情をしっかりと子どもに注ぐのよ」と。

アメリカでは仕事と家庭を両立するためにはどうすれば良いのかといった研究がしっかりとされていますが、日本では残念ながらそういったアドバイスは皆無で、産後うつ病の研究もありません。アメリカは人が必要とすれば研究があり、私は先生の言葉に助けられました。私は先生の言葉を実行し、1日1時間程度しか子どもに愛情を注げなかったんですが、後になって子どもからは「お母さんは1時間もくれなかったよ」と言われました。研究者仲間からは「親がなくても子は育つて言うけれど、嘉田さん家は親がないから子が育つのね」と揶揄されています。

子育てをしながら仕事をする時が一番の

迷い所で、一般的には3歳まで、安倍首相は6歳まで「母親が抱えていなさい」と提言しています。でもそれは神話で、母親以外の愛情で子どもをきちんと育てる事はできます。フランスでは親はスポイルするからと子どもは1歳になるとみんな保育園です。それでちゃんと育っています。逆に今の日本の子どもの方が意味過保護で過干渉で問題がある。そういった事をきちんと研究した上で私自身は男女協同参画が大事だと考えています。

### ■ (3) 選挙の闘い方が政策実現の手法・成果を規定する“くらし言葉”で訴え続けた3つのもったいない

知事選挙では①高コスト体質の公共事業、②人口減少社会リスク、③自然破壊の3つのリスクを訴えましたが、実は学者業界用語、大学業界用語、行政業界用語などいろいろな業界用語があります。それに対して私は“くらし言葉”で訴えようと考えました。「税金のムダ使いもったいない」は行政的に言うと“財政再建”です。街頭演説で「財政再建が必要です!」と言われるのと「税金のムダ使いもったいない!」と言われるのでは、どちらが分かりやすいですか? 私は選挙のポスターに「もったいない」と書いていたんですが、街頭で小学生が「もったいないおばさんだ!!」と言うので、「ポスターの顔と一緒にしょ? お家に帰ったら『もったいないおばさんに会ったよ』と言ってね」と返します。選挙のプロは「子どもは票にならないから話しかけるな」と言いますが、たとえば、琵琶湖線膳所駅前には付属小学校と膳所高校の生徒さんがたくさんいるのでチラシを配っていました。でも子どもたちはよく見ていま

す。何を話しているのか、ポスターに何が書かれているのか。だったら子どもにはタブーとせず、学校の先生の給料は誰がどうやって払っているのかを知ってもらう。お父さんやお母さんが払った税金の中から所得税は国にいきます。地方税は半分が県半分が市町村にいきますが、県にいったお金の中から小・中・高の先生のお給料は支払われている。学校の建物は市や町の持ち物でと、社会の仕組みを子どもたちに教える事も含めて税金のムダ使いもったいない、自然のめぐみ壊したかもったいない、子どもや若者の自ら育つ力をそこなったらもったいないを訴えさせて頂きました。

「もったいない」は「くらし言葉」ですが、お金や物の節約だけではなく、人や物がもつ本来の力が発揮されたら有難いという意味もあります。高齢者は美味しいものを頂くと「もったいないです」と言いますし、「ごもったいないことです」と“ご”を付ける方もいらっしやいます。逆に「あの人にあの仕事はもったいない」はその人本来の力が発揮されなくて心苦しいという意味です。逆に本来の力が発揮されたらリスペクトする。この言葉は実は英語になりません。私は環境社会学会の会長の時に世界各地で「もったいない」は英語にならないので“もったいない”と講演し、90年代から“mottainai”と言っていたんですが、後からケニアのワンガリ・マータイさんが広めてくださいました。また、日本の宗教的な基礎概念、仏教思想の中に、自然の仕組みと共に環境共生にも繋がる考え方があります。

#### ■政策理念を実現する選挙の闘い方

特定の政党や団体から選挙の応援を頂く

としがらみや癒着が生まれます。有難い事に私は、地盤、カバン、看板無し“草の根型”でした。2006年の選挙は自公民推薦、270団体推薦の現職3期目と共産党推薦の新人、そして私が3人目の候補者だったんですが、誰も勝てるなんて思っていないし、現職以上の支持を得るなんて思っていない。では4月1日から7月2日のわずか3ヶ月でひっくり返ったのはなぜか。

1つはくらし言葉による対話そして座布団会議だったと思います。私は何百人も集めて演説会といった事はしませんでした。と言うよりそんなに集まらなかったんですが、主に立ち会い演説会をしました。少ない時はたった5人で「もうやめましょうか…?」と言われてましたが、「少なければ少ない方が対話できますから」と言いました。ある時、20人ほどが集まってくださったんですが、「あなたの言う事は分かる。でも4年後だろうね」と言われました。でも、「4年後では駄目なんです。新幹線の新駅もダムもできてしまう。間に合わないんです!!」と訴え続けました。

いわゆる地域問題や個別問題＝プロブレムを社会的な 이슈にするのは社会学的に重要で、「駅はもったいない」を財政再建から日本の財政難につなげていく事が重要です。あなたの家でお孫さんが生まれないのはあなたの家の責任ではなく、保育園が足りない、仕事と両立できる女性の仕事支援が足りないから。特に若い男性の正規雇用が少なくなりどんどん非正規化されているから社会問題だと 이슈化する。プロブレムから 이슈へ、そうする事でまずマスコミが乗ってきますし、つないでくれます。これは社会学や社会科学を学んでらっしゃる方は内面から理解していただける点だと思います。

しかし、ここで問題なのは1つのイメージが定着してしまう事。「嘉田は脱ダムだから」と言われてしまいますが、私は脱ダムではありません。ダムの目的は命を守るための治水手段の1つであり、ダムだけに頼らないようにしようと言っているだけなんです。ダムも選択肢の1つで、安くて早くて有効であればダムが良い。原発も安くて早くて環境を汚さず廃棄物のような負担を未来に残さず持続的・合理的であれば選べば良い。選択肢を広げ、社会で合理的に選択しようと言っているだけなのに、イシュー化すると単一のイメージが定着してしまい、「あの人はレフティだ」とまで言われます。地域を良くするには左も右もありません。しかし、後から困る事もあります。

#### ■生活者感覚を活かした選挙

まずは虫の目型、草の根対話による本音の発見です。知事になる以前もうすうす気付いてはいたんですが、例えば「駅が必要」「ダムが必要」と陳情に来ている人たちの本音は、「うちは孫が生まれへん。嘉田さん、世話してくれ」であったり、「孫が生まれる、子どもが生まれる政策の方が大切やろう」であったり。「人口が減ってしまったら新しい駅をつくっても新幹線に乗る人がいないだろう」と栗東駅直下の方が言うてくださいます。でも、みんなの前では誰も言いません。同じように「ダムが欲しい。ダムが必要」と言っている人が、昔からの知り合いだからと本音を言うてくれる。「嘉田さん、ダム、ダムって言うけれど、40年も50年も計画だけあって実現しない。それより目の前の川の堤防を早く安く確実に強化して欲しい。県にお金がない事は知っているから」とおっしゃっ

てください。こういった団体陳情型政治の言い分は曲者なので、生活者から本音を聞き出し言葉にして対話にして“見える化”していく。そういった草の根型の住民目線に近い政治の実現をしてきました。

#### ■軍艦と手こぎ舟の闘い

2006年の知事選は「軍艦 vs 手こぎ舟」と言われました。相手は自公民3つの公党270団体が推薦している現職知事で、人の多さ、選挙の大きさではまさに軍艦です。一方こちらは手こぎ舟。一人として遊んでいられず、人を見れば「チラシを配って」とお願いしみんなで闘いました。そして、しがらみの選挙に対して「エンピツの先は誰も見ていない、これが民主主義の原点だ」と「鉛筆一本の勇氣」を訴えた事が功を奏したと思います。以前、「軍艦 vs 手こぎ舟の闘い」についてマスコミに聞かれ時に「軍艦って石油が無くなると動きませんよね？でも、手こぎ舟は人の力で動きます」とやせ我慢でなく自信をもって答えましたが、「これが嘉田式選挙だ」と皆さん動いてくださいました。今、円安でどんどん石油が高くなっていますが、果たしてあの巨大な軍艦は動くんでしょうか？

#### ■(4) 財政健全化—ムダな公共事業の見直し 県政2期目に向けた2つの戦略

知事一期目で約束の公共事業の見直しはほぼ仕上げました。二期目の新たな戦略として、県民参加型のマニフェストづくりと駅やダム凍結に対する確実な代替政策を立てました。

新幹線新駅の計画地には環境エネルギー型の企業を誘致、ダム凍結には治水の代替案

### 「かだマニフェスト2006」 でのダム凍結

- 丹生、大戸川、永源寺第2ダムの県支出金合計200億円以上が、県営の戸谷ダム、北川第一、第二ダム建設についても今後数百億円以上の県支出金が必要です。この6つのダム建設計画について凍結します。
- 以下の代替案を提案して県民の皆さんとの対話を通して見直します。
- 治水については、ダム以外の方法（堤防強化、河川改修、森林保全、地域水防強化）、すなわち「流域（地域密着）型治水」により対応します。
- 利水も、ダム以外の方法、水の循環再利用システムを構築します。
- また、公共事業の地域振興効果として、ダムのような大型公共事業は必ずしも地域経済を長期的に潤すものではありません。流域（地域密着）型の河川改修や農業水源確保事業のほうが迅速な対応、地元の業者が直接工事に参加でき、しかも費用が安く済むなど脱ダムに関する代替案を提案します。
- あわせて、ダム建設を前提に集落移転を余儀なくされた地域の人々への謝罪と社会的配慮を十分に行います

として流域治水政策と併せてダムの水没予定地域の地域振興、福祉政策を進めました。6つのダム凍結に関しては治水が一番のポイントで、「滋賀県モデル、命を守る流域治水」を進めました。先日、広島で大変な土砂災害がありました。県も市も危険地域として指定しておらず、家を流されてしまった方々も危険地域としての認識がなかったようです。

滋賀県は「危険地域は指定しよう」と流域治水を進めました。もちろんできるだけ早く川の中へ流す事は必要ですが、計画規模という目標値があり、それを越えると溢れざるをえません。

しかし、多くの政治家も行政も「溢れる」とは言わない。言ってしまうと無責任だと言われ、票を失ってしまうから。そこで私は溢れる事を前提にまずはできるだけ流域や森林で水を貯める対応を進めました。日本は何万年も前から洪水に見舞われてきましたが、昔の人は堤防を2本つくったり霞堤といって堤防の一部に切れ込みを入れ、田んぼや森に水を逃がして住宅地を守り建物のかさ上げをしたりといった暮らす工夫をしています。それでも止められなければ、最後は逃げるしかありません。広島の土砂災害で例え一人でも逃げてくださっていただければと思いましたが、

### 滋賀県モデル、命を守る流域治水 ～地域性を考慮した総合的な治水対策の展開～

目的	① どのような洪水にあっても、人命が失われることを避ける（最優先） ② 床上浸水などの生活再建が困難となる被害を避ける		
手段	川の中の対策（堤外地対策）だけではなく、「ためる」「とどめる」「そなえる」対策（堤内での対策）を総合的に実施する。		
河内内で洪水を安全に流下させる対策（これまでの対策）	ながす	河道掘削、堤防整備、治水ダム建設など	
流域貯留対策（河川への流入量を減らす）	ためる	調整池、森林土壌、水田、ため池グラウンドでの雨水貯留など	
氾濫原減災対策（氾濫原を制御・誘導する）	とどめる	輪中堤、二級堤、霞堤、水害防備林、土地利用規制、耐水化建築など	
地域防災力向上対策	そなえる	水害履歴の調査・公表、防災教育、防災訓練、防災情報の発信など	

危険を知らなければ逃げる事もできません。という事で命を守る流域治水として水を流し、流域で水を貯め川に大量に流れないようにし、かつ伝統的な知恵や知識を活用するなど多重防護と避難体制づくりを進めてきました。

結果、2010年7月11日の選挙では419,221票もの票を頂き、財政の健全化として8年間で借金を900億円減らし貯金を300億円増やしました。新幹線の新駅はまさに民意による選挙で止める事ができ、「自治体の公共投資がハードからソフトへ、政治変革の可能性が証明された」と上山信一慶應大学教授が言ってくださいました。

#### ■作成と公表に8年を要した「地先の安全度マップ」

そして大事なものは、水害被害を示すマップづくりです。国による一級河川が溢れた際のマップは平成17年以降にようやく作成されましたが、溢れるのは川だけではありません。下水道や農業用水はもちろんそもそも低い土地であれば水は溢れますから、それらすべての要素を集めた「地先の安全度マップ」を作成し公表しました。「滋賀県がリクスマ

ップを公表し命を守る仕組みをつくった」と12月2日の『報道ステーション』で約11分間放送していただきましたが、県のHPには通常1分1,000件程度のアクセスしかないんですが、この時は1分1万件に上がりました。

このマップでは、一級河川、普通河川、下水道と網羅したため作成に8年を要しました。大学の先生方の助力を頂き土木技術者が自前でやったださり、土木学会賞を頂きました。2012年ようやく完成したんですが、公表するまでにさらに2年を要したのは、2つの大きな抵抗があったからです。1つは議会で「危険な情報を出して、人身を混乱に貶める」「どんな大雨でも川に水を閉じ込めるのが知事の仕事だ。それが溢れたら知事の管理瑕疵を問う」と。しかし、日本中のどこであってそんなに安全に水は流せません。知事責任は予算の範囲内で平均的治水事業をする事で、そもそも川は自然公物ですから自然の仕組みや自然災害に対して行政が負うべき責任はバランスが取れ平均的にやっていたら良い。もちろん200年確率ができれば良いですしそうしたいんですが、たった10年確率でも、滋賀県管理の一級河川の整備を行なうのに5,000億円もの費用がかかるんです。滋賀県として毎年50億円の河川整備の予算、これはかなり高額で、県の裁量がきく予算の2、3割にものぼりますが、その予算をいれても100年かかる、という数値です。

もう1つの抵抗は市長会で、「こんな情報を出したら地価が下がって困る」と言います。政治に出ている方は地主系の方が多く土地を売る側はどんなリスクがあっても売り抜ける方が得です。でも、買う側として家は一生ものでリスクを知らずに家を建て水に浸かってしまったら…。京都の福知山では2

年前に続き今年も由良川が氾濫していますが、リスクマップをつくっていません。私は山田知事に「大変ですよ」と言いましたが、山田さんは分かってらっしゃって現在準備を進めてらっしゃいます。

という事で「滋賀県の流域治水を推進する条例」は2014年3月24日に議会を通過、土地利用規制と建物のかさ上げの義務化、危険区域を地域指定するという条例が全国初で制定されました。ですから滋賀県内の不動産取引では業者さんがリスクマップを必ず見せてくれます。当初は不動産関係の抵抗があるかと思っていたんですが、「こういったものがある方が土地の取引がしやすい」と喜んでくださっています。実はアメリカやヨーロッパでは当然の事でリスクマップをもっていない先進国は日本だけです。タイはもって2年前にチャオプラヤー川が氾濫し日本企業が2兆円の損失を受けるなど大変な事になっています。

このように「住み心地日本一の滋賀」を目指し、1. 子育て・子育て応援、2. 働く場への橋架け、3. 地域を支える医療福祉・在宅看取り、4. 低酸素社会実現。5. 琵琶湖の再生、6. 滋賀の未来成長産業、7. 地域の魅力まるごと産業化、8. みんなで命暮らしを守る安全・安心という8つの重点テーマを置き、政策を進めてきました。

#### ■出生率改善に向けて一「子育て三方よし」

次に出生率の改善についてです。少子化の進行には男性中心の政治の責任が大きいと思います。北欧やフランスでは1980年代以降の家族政策が成功していて、解決までの道筋はともかく、子育て・子育てを応援し、働く場をつくり出し、経済成長と人々の成長、



しかし、この数字の裏には政治の仕組みもあります。ノルウェーでは1975年に国会議員の3割を女性にという割当制度をつくっていますが、日本の国会議員の女性の割合はたった10%。この数字は戦後間もなく女性参政権が認められた頃とまったく変わっておらず、70年もの間少なくとも数字の上で女性の政治参画は進歩していない事になります。これは「女は引っ込んでいろ」「母親が家で育てなければ子どもは育たない」など、社会を牽引する政治家や企業の男性の頭の中が変わっていないからです。女性の労働参画率、出生率が低い日本や韓国、ギリシャ、イタリア、スペインは財政難の国で、ギリシャに至ってはEUで足を引っ張るとのけ者にされています。EUに加盟している北欧の国々の言い分としては「ダブルインカム、ダブル納税、ダブル社会保障でやっているのに、南の方の国の女性は専業主婦のシングル納税で国家が貧乏になっている。何で私たちが支えなきゃいけないの？」です。

残念ながらシングル納税、シングル社会保障は国を貧乏にします。私は40年前から言い続けていますが、女性研究者がいくら叫んでも誰も耳を傾けてくれなかったので知事になり、男女共同参画は国家のためにも経済のためにも良いと8年間言い続けた結果、ようやく国もその方向にいつているようです。

一方、こちらは私たちが全国知事会で作ったデータですが、日本の都道府県でも女性の有業率の高い所は出生率も高い。鳥取、島根などがそうで、保育園があり親も近くにいて仕事と子育てが両立しやすいんです。都会に学生を集め仕事も両立もできなくする事が人口減少の大きな原因の1つだと私は思っていますから、若い人たちが故郷に帰って子どもを産んで…といった選択ができるよう

国として支えなければいけません。

実はエネルギー問題の原因もここにあり、ドイツやスイスなど自然再生エネルギーを地域ごとに実施している国では、大学院を出た人材が故郷に帰ってリーダーシップをとるなど地域に若い人が定着しています。つまりエネルギーを自給自足している所には若い人が居る。対して日本は、40年来の男性中心社会が都会に若い人を集め過ぎ子どもが産まれないという国家の損失を生んでいます。

ちなみに滋賀県の人口あたり出生率は全国2位まで回復しました。また、一人の女性が生む出生率H1.54と10位前後ですが、人口あたりの出生率はかなり改善されています。

#### ■ (6) 命を守る琵琶湖、原発による生活破壊、自然破壊への「被害地元」としての異議申し立て—琵琶湖3つの受難からの再生

最後の「自然を壊さない」という問題です。資料を読んで頂ければお分かり頂けると思いますが、戦後の琵琶湖には3つの受難がありました。1つは1940～70年代にかけて食料増産のために内湖（付属の湖）を干拓して農地化した事。2つ目は大阪、兵庫といった下流府県の都市化を支えるために琵琶湖全体をダム化した事。結果、琵琶湖周辺のヨシ帯、水田、水路を分断化し在来魚介類の産卵場を喪失した事も大問題です。在来魚介類がいると水がきれいになるんですが、いなくなると水質悪化に繋がるという事が分かってきたのでこの点はかなり取り組みました。そして3つ目の外来魚。

私たちは江戸時代から現在までの地域の歴史＝生活環境史を調べ、人と環境の関わり

の再生に取り組みました。そのためには科学的知識と生活的知識が大事で、地域に合う生活文化や自然と人の関わりを大切にしながら暗黙的な経験や知識を政策の中に活かしました。人と環境の関わりにおける3つの価値、水は飲むという点では「ものの価値」、命を宿す「生命価値、生存価値」、水を見ると気持ちが良く戯れたら楽しいという「心の価値」と、使用価値、存在価値、触れ合い価値としてすべての価値をバランス良く再統合する、これが生活環境主義です。お金だけの問題になってしまっただけは商業主義ですし、生態学でいうと命だけの問題に、あるいは楽しければ良いというレジャーだけの問題になってしまいますから、これらすべてを政策としバランスを良くという事を8年間させて頂きました。京都の皆さんを含む1,450万人の方々に琵琶湖の水を飲んで頂いていますが、生態系の保全と人と湖の関わり再生、そしてトータルなものの価値、命の価値、関わり価値を含んだ政策です。

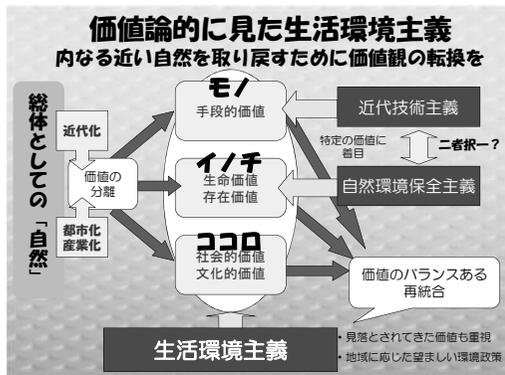
また、琵琶湖総合開発ではヨシ帯と田んぼの間に護岸堤防をつくり、水陸分断しました。これは琵琶湖をダム化し水位を人工的に操作するダムにするための堤防で、そこを以前のように行き来できるようにし、「魚のゆりかご水田プロジェクト」によってにごろ鮒



の総数が24トンから48トンまで戻りました。さらに一旦干拓した田んぼに水を入れるなど内湖の再生も手がけ、琵琶湖の将来あるべき姿として昭和30年代の琵琶湖と人々が共生していた「強い繋がり」を取り戻すべく触れ合い価値の再生も行っています。

■自然破壊への異議申し立てー原発再稼働阻止に向けて

最後に原発の問題です。現在若狭にはもんじゅを含め14基の原発があります。資料の地図には30キロ圏、40キロ圏、50キロ圏と円が描かれていて若狭湾岸の原発が滋賀県や琵琶湖に如何に近いかがお分かり頂けると思います。琵琶湖では1年間のうち秋・冬・春の3つの季節は北か西から、つまり若狭から風がきます。夏だけは南或いは東からが多いのですが、圧倒的に若狭からの風が多く「原発風下・被害地元ネットワーク」として提案を行っています。そして万が一福島原発のような事故が起きてしまった場合にどこまで被害が拡散するかという自治体としては初となるリスクマップを作りました。こちらも公表の際に「人身を混乱に貶めるな」と何人かの市長たちに叱られました。福島では知らずに辛い思いをなさっている方が多



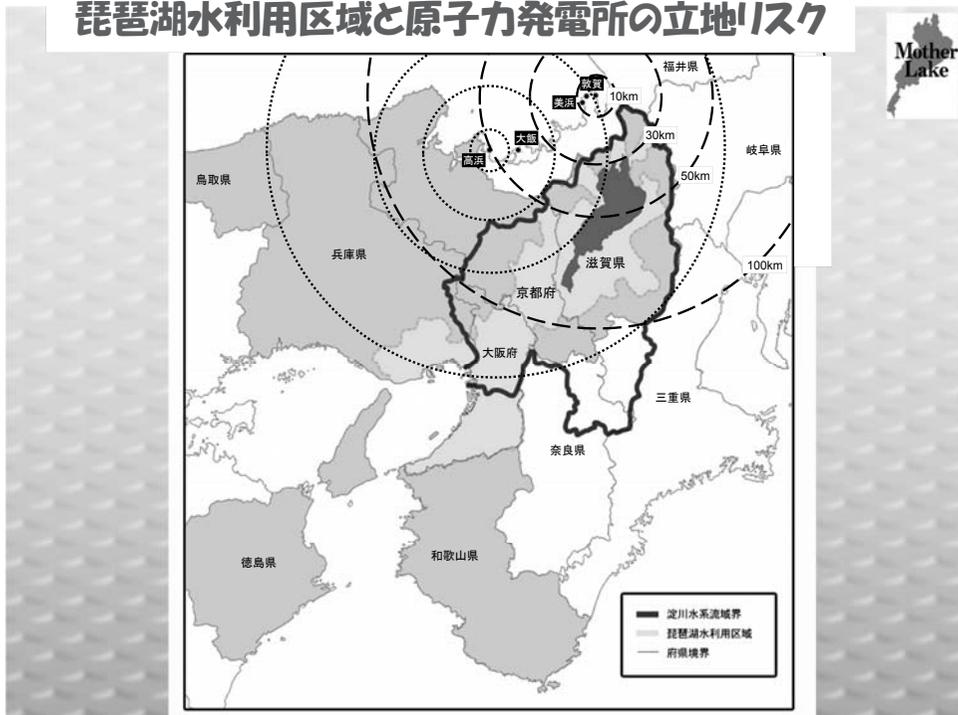
く、知って備えるが大事だと批判されながらも押し切って公表しました。それができたのはある意味私が研究者だったからだと思います。シミュレーションの説明をし、どんな記者会見でも誰にでも説明ができる。議会でもそうでしたが、突っ込まれた時に答えられる自信は私が琵琶湖の研究を行ってきたからで、これは大変良かったと思っていますし、さらに生態系への影響の調査も進めています。

2012年、大飯原発3・4号機の再稼働問題がおきていた4月12日、山田知事と大飯原発を訪問した際に気付いたんですが、大飯原発からは福井県庁よりも京都府庁、滋賀県庁の方が近いんです。私たちは琵琶湖が汚染される事を大変心配していますが、世界遺産の京都が放射性物質に汚染されたらどうなりますか？ 琵琶湖の代わりはありませんが電

源の代わりはあります。京都の代わりはありませんが、電源の代わりはあります。京都の皆さんにも原発問題を真剣に考えて頂きたいと思っていますし、どうにかして電源の代わりを探そうというのが、再生可能エネルギーの模索でもあります。

私は今夜水俣に行きますが、川内原発がある水俣や熊本も原発問題はよそ事ではありません。川内原発は30キロ圏内の防災計画作成が義務付けられていますが、鹿児島県の伊藤知事は「10キロ圏から外は避難計画を作らなくても良い」とGOサインを出しました。これは「選挙で勝ったから良い」という棄民政策で大変驚きました。滋賀県で「10キロ圏内から外の避難計画は無くて良い」と言っているのと同じで、私には理解できません。鹿児島県と薩摩川内市はGOサインを出していますが、他の30キロ圏内の出水市

## 琵琶湖水利用区域と原子力発電所の立地リスク



や日置市、薩摩町などはGOサインを出しておらず、「自分たちだけ見捨てないで」とおっしゃっていますが、被害地元は完全に無視されています。これが自民党政権が決めた川内原発の再稼働で、皆さんにはこの社会的意味をぜひ知って頂きたいと思います。

#### ■ (7) 「チームしが」これまでとこれから

今までお話した事はありませんが、皆さんにとっては勉強なので敢えて申し上げますが、政治には表もあれば裏もあります。という事で資料には武村知事に参加して頂いたプロセスもお書きしているように、2014年7月の滋賀県知事選挙では「三本の槍」というポスターが滋賀県中に一斉に貼り出されました。「三本の槍、さあ、出陣！闘いだ!!」という事なのですが、私たち「チームしが」は七色の虹をイメージしてマークをつくりました。みんなそれぞれ意見が違うんでしょうが、私は違って良いと思います。意見の違う人たちが小異を捨て大同に付くと言いますが、「小異を活かして大同につきましよう」と。女性、男性、若者、子ども…、小異を活かして大同に付き命を守る。みんなでライブリー・ポリティクスを求めようというのがチームしがで、政党は多様で自民党系の方もいますが、あくまで琵琶湖と地域のためのチームをつくらせて頂きました。「選挙は戦争か、参加の機会か」という問いが資料にあります。皆さんの一票一票は参加の機会ですから決して捨てないでください。これが今日一番申し上げたい事でもあります。

先ほどのスウェーデン、ノルウェー、デンマークなど男女協同参画の進んでいる国は投票率も高く、若者の8割から9割が投票に行きます。投票に行かなければ自分たちの子

育てや教育にお金がまわらないから。もちろん高齢者対策も大事ですが、高齢者ばかりが投票していても仕方ありません。子ども政策への予算配分で日本はOECD諸国の中の最下位で、「女、子どもにお金は入れん」が悲しいけれどこれまでの40年でした。それを若い人の投票率を上げる事でどうにかしていきたいと思っています。

#### ■最後に天台薬師の池・琵琶湖と共に生きる

「チームしが」が掲げる「知行合一」は中江藤樹先生の言葉で、知る事(学問)と行う事(行動)は元は一緒だという意味です。

最後にこちらの写真をご覧ください。この辺りが比叡山でちょうど龍谷大学の瀬田キャンパスの辺りから見た角度ですが、比叡山に対して琵琶湖は「天台薬師の池」です。京都側から見ている比叡山は実はお尻で比叡山の正面は琵琶湖だという事を今日は刻み込んでいただけたらありがたいです。そして、後ろから拝むのももちろん良いんですが、ぜひ琵琶湖側から拝んで頂きたいと思います。

天台薬師の池である琵琶湖の水の光が瑠璃光がお薬師さんのご利益をたかめてくださいます。そして、比叡のお薬師さんをお守りしている神様が日吉山王さんです。坂本にあります。東京に寛永寺というお寺があり、江戸の町は東叡山・寛永寺に守られています。そのご本尊・薬師如来は1620年に草津、近江から行っています。近江こそがお薬師さんの本拠地であり、不忍池は琵琶湖で、あそこにある赤い弁天さんは竹生島です。江戸は琵琶湖を模してつくられ、仏さんを守る神様、日吉山王さんは東京では赤坂の山王さんです。

知事を務めたから自己自慢ではなく、歴史が琵琶湖のお薬師さんの美しい風景を守れと言ってくださっています。皆さんも瀬田のキャンパスに行かれた時は、瀬田から琵琶湖と比叡山を眺めてください。伝教大師は国分寺の瀬田からお堂をつくろうとして延暦寺の祠をつくりました。おそらく新生美術館にはお薬師さんも出現してくださると思います。私たちも龍谷大学の皆さんと共に仏様を尊ぶ気持ち大事にしていきたいと思っています。ご清聴、ありがとうございました。

[質疑]

[質問] 橋下大阪市長は国政と市長行政のどちらもされていますが、かねがね違和感を感じています。どちらもやる事はできるのでしょうか？

嘉田 私はそうした方が良いと思っていますし、2年前の未来の党の結成時もそう主張しました。ドイツとフランスから学んだんですが、フランスは国会議員、特に上院の8割が知事か市長です。ドイツも同様で兼務する事で国の法律が自治体でどうなっているかを一貫して理解でき、最小の費用で最大の効果を得られる政策が可能です。残念ながら国会で自治体の仕組みを分かっている人はいないため、「またこんな法律をつくって…」「こんなに予算を使って…」といった事が多々ありました。しかし、そのためには公職選挙法や国会法など、また憲法も変えなければいけません。ドイツのエネギー政策と同様に、国がきちんと整備し自治体と手を結べば良い成果が出ると思います。ただ、現在橋下氏と私の意見は随分と違いますが。

[質問] 知事の職務に影響はありますか？

嘉田 ドイツでは副知事をきちんと付け、国

会に行く際は県議会を調整するなど兼務できる仕組みになっています。日本では時間的にも厳しいんですが、国民が良いと判断すれば憲法を改正し自治体の首長が国政を兼務するのは有機的且つ合理的だと思います。

[質問] 「地方の魅力」という点で、国に原因があるのか、魅力ある地方をつくれない地方に問題があるのか、それを理解できない国民、市民に問題があるのか。それともその3つが合わさって魅力が発揮できるのか、嘉田さんはどのようにお考えですか。

嘉田 国、地方、住民、全部に責任があると思います。まず、国にはどうすれば地域が元気になるかが分からない人が多く、地域創世を謳う石破大臣からほとんどアイデアは出てきていません。であれば国としては細かな補助金ではなく一括交付金といった形で出資して頂き、地方は地方で知恵を出す。無い物ねだりではなく、日本中に〇〇銀座をつくるでもなく、あるものを育てあるもの活かす「地方による自己発見」が必要だと思います。

また、国民にとってマスコミの影響は大きいんですが、午後9時以降のテレビのニュースはほとんどが東京発です。実は滋賀県で午後8時45分から滋賀県のニュースが流れるようになったのは私が知事になってからで、それまで滋賀県のテレビニュースは6時55分頃が最終でした。ドイツやフランスでは地域のローカルニュースが充実していて、朝のカフェは地域の議会や行政の話で盛り上がり、国民が目目を光らせています。だから住民はマスコミに流されるのではなく、地域の良さを発見できる。住民も行政も国も、三位一体にならないと地域の元気は取り戻せないと思います。滋賀はかなり取り戻せたと思っていますが、県民の皆さんの判断を仰ぎたいと思います。

**[質問]** 大飯原発のお話もして頂きましたが、もし爆発等が起こってしまった場合、滋賀県では立命や龍谷の学生さんなど大勢の若い方々にお配りするヨウ素液の準備などはできてらっしゃるんですか。

**嘉田** ヨウ素材の準備はしていますが、北部地域だけです。南部の大学生用はありません。また措置するには医師の判断が望ましいと言われていています。しかし、実際にそんなに医師がいますか？ 準備はしていますが、知事として責任は取れません。だから避難計画がつかれないんです。高島、長浜の約5万人の避難を考えた場合、やはりバスが有効なんです。バスの運転手を汚染エリアに送り込む権限が知事にはありません。日本の法律はそうに穴だらけなんです。これまでは安全神話の中で何も準備してきませんでした

から。ドイツやアメリカでは原子力政策は環境政策と最初からセットで、アメリカでは避難計画ができなければ新設の原発でも許可が降りず廃炉になった例もあります。それほどライブリー・ポリティクス、命と暮らしを大事にしています。市場主義のアメリカでさえそうなのに日本は命や暮らしへの配慮があまりにも足りない。自治体を預かる立場としては日々感じていました。防災計画をつくりなさいという義務はありますが、ノウハウがまったくなく準備ができませんし、公的権限もありません。ここまで言うてしまう人はあまりいないと思いますが、知事を経験する事でよく分かりました。避難計画は本当に抜け穴だらけで危ないんです。

(2014年12月6日)